

平成29年度 第2回千葉市スポーツ推進審議会議事録

- 1 日 時 平成29年11月8日(水) 午後2時00分～午後3時10分
- 2 場 所 千葉市教育委員会 第1会議室
- 3 出席者 (委員)
小川直哉会長、本澤英雄副会長、小川重夫委員、五月女重夫委員、佐藤正典委員
谷藤千香委員、馬場宏輝委員、松尾和美委員、山根和子委員
(事務局)
安藤生活文化スポーツ部長、塚瀬(公財)千葉市スポーツ振興財団施設長、
山崎スポーツ振興課長、内山スポーツ振興課長補佐、笠井主査、草場主査、竹内主事

4 議 題

- (1) 報 告
ア WEBアンケート調査の結果について
イ 市民意識調査の分析結果について
- (2) 議 事
ア スポーツ実施率向上に向けた取組みの強化について

5 議題の概要

- (1) 報告
2項目の報告を行った。
- (3) 議事
市民向け冊子を作成することで了承をいただいた。

6 会議経過

開 会 午後2時00分

【内山課長補佐】 それでは、定刻になりましたので、ただいまより、「平成29年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」をはじめさせていただきます。本日の進行を務めます、スポーツ振興課の内山でございます。本審議会は千葉市情報公開条例により、公開することになっております。なお、本日は傍聴者はありません。また、会議終了後、議事録の作成、議事録の確定を行い、開示されることとなりますので、あらかじめ御了解ください。

次第に従いまして、はじめに小川直哉会長にご挨拶をお願いいたします。

【小川会長】 本日はお忙しい中、平成29年度第2回スポーツ審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。いよいよ2020年の東京オリンピック・パラリンピックまで1000日を切りまして、開催までのカウントダウンが始まりましたが、それに反してと言いますか、千葉市民をはじめ国民全般、特に働き盛りの人たちのスポーツの実施率が低下傾向にあるということで、前回の審議会の中でも我々はスポーツと言うと、アスリートがやる競技スポーツを考えますが、ウォーキングや階段の上り下りとか、あるいはストレッチ体操など、気軽にできるものも含めて広い概念でスポー

ツだということを周知したほうがいいという意見がありました。スポーツ庁の鈴木大地長官も2期目の就任にあたりまして、スポーツ政策の基本というのは国民の健康にあるということで、FUN+WALKプロジェクトを立ち上げて、特に20代～40代までの人たちをターゲットにして、一日1000歩を余分に歩こうという運動を企業や自治体と連携して展開していきたいということのようです。そういう状況を踏まえまして、委員の皆様方にはご率直な意見を出していただければと思います。よろしく願いいたします。

【内山課長補佐】ありがとうございました。続きまして、生活文化スポーツ部長安藤より、ご挨拶を申し上げます。

【安藤部長】みなさまこんにちは。皆様方には千葉市のスポーツ行政に多大なるご支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。小川会長からお話があったように、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて準備を進めている状況です。来年2月には、冬季オリンピックが平昌で開催されます。2019年にはラグビーワールドカップが開催されるということで、この3年間は非常に大きな大会が開催され、国民のスポーツに対する関心が高まっていくものと考えております。しかしながら、実際にスポーツをするということに結び付けるのは非常に難しいということで、その辺が課題になってくるのかなと思います。実施率につきましては、平成28年度に策定しましたスポーツ推進計画の中で、32年度を目標に成人の週1回以上の実施率を50%以上にすることを目標にしているわけですが、WEBアンケートを実施したところ、27年度は45.6%であったものが、今年は40.5%と、約5ポイント減っているという状況にありまして、いかにこの数字をあげていくかというのが課題になってくるかと思っております。本日はスポーツ実施率の向上に向けた取組みをご審議いただければと思います。皆様のご意見を頂戴いたしまして、施策に反映していきたいと思っておりますので、ご審議のほどよろしく願いいたします。

【内山課長補佐】これからの進行につきましては、小川会長をお願いいたします。

【小川会長】まず、「議事録署名人」について、先程、進行の方から説明がありましたように、本審議会が会議が公開されており、議事録の確定方法については、「あらかじめ指名された委員」による承認にしたいと思っておりますが、よろしいですか。

【各委員】<異議なし>

【小川会長】それでは、議事録署名人として、佐藤委員をお願いしたいと思います。

【佐藤委員】<了承>

【小川会長】それでは、会議次第に従いまして、進めてまいりたいと思います。

最初に、報告(1)の「WEBアンケート調査の結果について」、事務局よりお願いいたします。

【草場主査】<資料1により報告>

【小川会長】今の報告について、何かご質問はありますか。

【小川委員】昨年に比べて5%、週に1回以上の実施率が減少したということですが、原因はどのように分析されていますか。調査の仕方が変わったのでしょうか。

【内山課長補佐】調査方法については28年度と29年度で変わりありません。数字として5%減というのが出ていますが、我々としてもこの5%減の理由については正確には捉えられていないというのが現状です。皆様方にもご尽力いただいたスポーツ推進計画を策定しまして、関係各課と連携を図りながら事業を実施している中ではありますが、

なかなか結果に出てこないというところが、担当としても非常に苦慮しているところでもあります。

【谷藤委員】減少傾向にあるということは、千葉市だけの話ではなく、全国的な傾向であると思います。ちなみに、Q7のどこから情報を得ているかで、市政だよりとか新聞とかが多くて、10月から全戸配布にしたということですが、今問題の若者たちの実施率が落ち込んでいる中で、若者たちは市政だよりをどれくらい見ているのかということが、日頃から若者と接している中では疑問があります。年代別での分析で、若者たちはどういうツールで情報を得ているのかわかれば教えてください。

【安藤部長】市政だよりにつきましては、なかなか若者たちに見てもらおうというのは難しく、新聞を取ってない世帯には届かないということがありました。しかし、10月から全戸配布ということで、デザインも刷新して内容も充実させたものになりましたので、少しは見てもらえる方が増えるのかなと、その中に若い世代の方々も入ってくるのではないかと期待しています。しかしながら、若い方たちは、スマホでの情報入手というのがほとんどだと思いますので、そちらからの情報入手というのも課題であると思います。ただ、自分の関心のある分野にしか自らアクセスしていかないという面がありますので、その辺の関心を高める有効な方策については、スポーツに限らずあらゆる施策の分野で課題になっているというのが現状です。

【谷藤委員】この調査は市政だよりが全戸配布になる前に実施したということですね。年齢別の入手状況の分析はされていますでしょうか。

【内山課長補佐】詳細なデータがありますのでクロス集計をすることは可能ですが、本日そのデータが手元にないので、詳細についてはお答えできません。市政だよりが多いということでは、40代の回答率が多いということで、市政だよりでの情報入手が一番多かったのだらうと評価しています。WEBアンケート自体も、市のHPから入っていただくというものですので、なかなか若い人たちの中で市のHPを見て調査に参加する人というは少ないと思いますが、市政だよりの情報は市のHPでも掲載していますので、興味を持って市のHPを検索していただければ、同じような記事が読めるような工夫をしているのですが、若い世代へのアプローチというのは日々考えていかなければいけない課題です。

【谷藤委員】よく見たら10代、20代の回答率が少ないのですね。WEBアンケートから若者たちの声をどうやって把握するかということも課題かもしれません。

【佐藤委員】Q6で磯辺スポーツセンターと高洲スポーツセンターの認知度の調査で、「磯辺スポーツセンターのみ知っている」という人が非常に少ないのですが、この理由は何かありますか。

【山崎課長】高洲スポーツセンターについては、以前高洲市民プールがあった隣に新たに建てましたので、認知度が高いものと分析しております。一方、磯辺スポーツセンターについては、元々学校施設であったところで、統廃合により体育館やグラウンドを改修してスポーツ施設にしたという経緯がありますので、その点で認知度に差があるということが推察されます。

【小川会長】ほかに質問などありますか。

【委員】<なし>

【小川会長】それでは報告(2)「市民意識調査の分析結果について」事務局よりお願いします。

【草場主査】<資料2により報告>

- 【小川 会長】今の報告について、何かご質問はありますか。
- 【馬場 委員】21年度と26年度で調査方法に大きな違いというのはありますか。
- 【内山課長補佐】ございません。
- 【小川 会長】WEBアンケートの説明の中で、26年度と27年度で調査の仕方が変わったという話がありましたが、この意識調査とは別の調査ですか。
- 【内山課長補佐】WEBアンケートとは別で、この市民意識調査は計画策定に合わせて、無作為で郵送にて調査票をお送りし、回答していただいたものです。
- 【小川 会長】調査結果の実施をしない理由を見ますと30代、40代は仕事などが忙しくて実施する暇がないということが現状ということですね。
- 【山崎 課長】そのようです。また、より多く実施するためには「身近で気軽に使える施設があれば」や、「きっかけがあれば」が多く、身近で気軽にできるものというのが必要かと思えます。
- 【小川 会長】それで国がFUN+WALKプロジェクトを進めていくということですね。
- 【安藤 部長】そのとおりです。スポーツという言い方をしますと、どうしても競技スポーツをイメージしがちなのですが、自らの意思で体を動かすことがスポーツであるというような定義をし、一駅分を歩くとか、階段の上り下りを意識的に実施していただくことで、スポーツ実施率が上がっていくことを期待しています。
- 【佐藤 委員】年代別のより多く実施するための理由の中で、「体調がよくなれば」という回答した20代が非常に多い。お年寄りの方の理由であれば納得がいくのですが、20代が多いというのは何かあるのでしょうか。
- 【山崎 課長】回答者の体調の悪さの程度にもよるとは思いますが、人によって体調の表し方というのが異なるとは思いますが、やりたくなくて体調が悪いということを理由にしている部分もあるのかなとは思いますが、詳しい理由までは把握していません。
- 【佐藤 委員】さらに細分化して、例えば「気分が乗らない」とか、そういうところまで調査できるとより具体的に分かるのかなと思います。
- 【山根 委員】実施しない理由で、20代、30代が忙しいということが多いのですが、私もこの年代で知っている方では就活で忙しいということもあるようです。仕事になかなか就けないなかで、スポーツまでやっている暇はないという方もたくさん知っているので、そういう点も解決していかないと、ちょうど体を動かせる年代なのに、そこで就活の方に一生懸命になって、費用もかかるからスポーツはできないということになってしまうので、その点でも、“費用がかからない方法ではこういうものがある”とか、“スポーツの指導者がここにいる”とか、そういうことをはっきり提示してあげないと、そういう方たちはなかなか飛び込めないのかなと思います。
- 【安藤 部長】公共の体育館であれば1時間220円で使えるわけですが、学校施設開放でも無料で地域の仲間と実施していただいていますので、こうしたところで仲間を見つけていただいて、費用のかからない中でもできるスポーツを実施していくということが非常にいいと思います。そのためにも、我々としても積極的に地域のスポーツというものを発信して、認知してもらえるような体制を構築していく必要があるものと思います。
- 【本澤副会長】実施しない理由として60代の「機会がない」ということが、我々も認識が違ったのか、高齢者の多い中で、色々なクラブに入って活躍している方が多いように思っていたのですが、この辺は特に大きな原因というのは何かありますでしょうか。

- 【安藤部長】誰かが背中を押してあげないと、なかなかできないというのがありますので、そうしたなかで、きっかけということが必要という回答になっているのかなと思います。地域の方々の中での声掛けや仲間づくりということが必要であろうと考えています。
- 【谷藤委員】WEBアンケートと比べると、WEBアンケートの方が実施率などは高いのですが、割合などは似たような傾向があるので、市民意識調査は実施するのは大変だと思うのですが、WEBアンケートはそれに比べれば簡単にできると思いますので、実施の理由ももう少し細分化して、対策を練るといように繋げていけると非常にいいと思います。
- 【馬場委員】実施しない理由とより多く実施するための理由を見比べると、実施しない理由は「仕事が忙しいから」が多く、「場所や施設がない」というのは比較的少ないのに、より多く実施するためになると、「施設があれば」が多くなって、「時間に余裕があれば」というのはあまり多くないというのは興味深いですね。やらない理由と、より多く実施するための理由は結局あってないようなものなのかもしれません。実施できる場所があっても、結局理由が忙しいのであればやらないと思いますし、身近で気軽というのが実際どれくらいのを想定しているのか、もう少し掘り下げるといいかと思います。「安く使える施設があれば」も同様に、公共の施設であればかなり安いと思うのですが、それをもっと安く使いたいと思っているのか、民間のフィットネスクラブを高いと言っているのか、このあたりも分析できるといいと思いました。
- 【五月女委員】20代の実施しない理由で「費用がかかる」というのは分かるのですが、「体が弱い」、「好きではない」というのが多いのが気になりました。中学校や高校で部活をやっていた人が大学とか社会人になっても続けられるかどうかという問題もあります。アンケートを取る人で傾向もだいぶ変わってくると思いました。
- 【松尾委員】現場で30代～60代の人をランニングクラブで見ていると、参加するまでに時間がかかるということがあります。施設があればやるけれども、忙しいからできないというのは意識の問題で、一歩踏み出して来れば、高かろうが安かろうが来る人は来ます。なぜなら、1回で終わりではなくて、その先に継続するシステムがあって、ここまでくるとこんなことができますよとか、結果を先にお見せする機会と継続しないと意味がないので、1回体験とか、ウォーキングイベントを設けますよとか、次はこうしますよとか、先のことを提示すると継続につながるのかなと思います。そこに来た人たちにまた来てもらえるよう、リピーターになってもらえるように、口コミとかでもスポーツの輪が広がっていくと思いますので、20代の体調がよくなれば、というのはどういう意味なのかよくわかりませんが、40代で運動をするきっかけというのは具合が悪くなったことで運動を始める人が多いので、そういうバランスで見ればいいのかなと思います。
- 【小川会長】ほかに質問などありますか。
- 【委員】<なし>
- 【小川会長】続きまして議事に入ります。議事（1）、「スポーツ実施率向上に向けた取組みの強化について」、事務局よりお願いします。
- 【草場主査】<資料3-1～3-3により説明>
- 【小川会長】今の説明について、質問、ご意見等ありましたらお願いします。
- 【谷藤委員】第1回でどこまで決定していたのか分からなかったのですが、今日はどこまでを審議対象とするのでしょうか。

- 【山崎課長】冊子は骨子案という形でおしをさせていただきましたので、この内容全般についてご審議いただければと思います。
- 【谷藤委員】3つの柱というか3つのステップなのかもしれませんが、まずやってみて、ちょっと継続して、もっとやるという順番はすごくいいと思いました。この部分にスポーツ振興、推進と考えると、「する」、「みる」、「支える」というものがありますので、ボランティアなども出てくると思うのですが、「まずはやってみよう」のところ、「観ること」などを位置づけて、何もしないところから体を動かすまでをどんどん近づけていくような形の、ステップに対しての下位のステップができるといいのかなと感じました。冊子に関しては、ターゲットが若者と考えると、冊子でいいのだろうかということが少し疑問に思います。スポーツのハードルを下げることには大賛成なのですが、スポーツの定義を広くしても、スポーツって言われた途端に振り向かない人たちがいるのではないかなと思いますので、スポーツではなく、せめて「スポーツ・レクリエーション」であったり、国での「運動・スポーツ」であったり、スポーツの一つ加えて、最初の段階で引き付けられるようにして、後半には競技スポーツが入っているというように持っていければいいなと思いました。
- 【山崎課長】スポーツという定義を3段階で分けておりますが、分けたとしてもやはり最初にスポーツと言葉が出ておりますので、ご意見のありましたとおり、レクリエーションとか、運動というような文言を付け加えて、より印象を広く持ってもらえるようにしたいと思います。
- 【小川会長】先ほど事業の説明の中で高齢者のフィットネスクラブの補助という話がありましたが、どの程度の補助なのでしょう。
- 【山崎課長】高齢福祉課の事業として実施しているもので、3か月の利用で自己負担額6,000円、残りを最大12,000円補助するというものです。
- 【小川会長】各区に福祉施設としていきいきプラザがあり、毎回利用の度に身分証明書を提出させられるのが煩わしいということ言う人がいるのですが、これは安全上の問題等があると思うのですが、管轄外ではあると思うのですがこれはどうにかできないのでしょうか。
- 【山崎課長】明確な理由は分かりませんが、年齢の確認だとか、施設内での緊急時の対応として個人情報把握しておきたいというのがあるのではないかなと思います。
- 【小川委員】骨子案について、対象の視点として、例えばまったくスポーツの経験が0という初心者については、月1回を目指す方々が中心となると思います。実施率を高めるためにはまず実施していない人、運動をしていない人というのが対象となると思います。茂原で健康スポレククラブというのを行政と一緒に実施しているのですが、参加者のほとんどは女性で、男性の参加率は低いです。そうした点では、高齢者の男性をいかに参加させるかという点も必要だと思います。運動をしている人たちはどんどん進んで運動をやると思いますので、骨子案としてはいいと思うのですが、どの辺に視点を置いて進めていくのか、運動をしない方々を中心にするのか、そのあたりがどうなのかなと思いました。
- 【谷藤委員】週1回以上の人を増やすのであれば、ほとんどなしの人をそこに持って行くわけで、やってない人がなんでやらないのかという「時間がない」というわけで、そういう人たちにまずやってみよう週1回以上を目指してということで、まずやってみようの段階は、すぐできることを紹介してやってみようとか、外に行ってみよう

しょうとか、こんなことがありますよとかがあるのですが、なんとなくかなり本人に委ねていて、そもそも気持ちの問題でやってない人が多いのに、そこに委ねすぎな気がします。それで、ステップ2-3のところに支援グループへの支援というのがあるのですが、ここに継続できるまでいかない、体験会とかをするような、「体験してみよう」というフレーズになるかと思いますが、その体験会をやるようなグループなどに、市が支援をして体験会を開催してもらおうという形でいかないと、まずステップ1の段階がちょっと本人の意欲に頼りすぎな感じがしました。最近、オリパラに向けての体験会とかもありますけど、パラじゃない人への体験会というのはあまりないような気がしますので、それを開催してもらったら、もう少しやるのではないかなと、これも期待なのですがそう思いました。

【安藤 部長】 まさに動機付けですね。動機付けをどうするか。委ねてしまえばなかなか変わらないので、こんないいことがあるよとか、やらないとこんな悪いことになるよとか、その辺をどうやって動機づけにしていくのかというのが課題だと思います。スポーツをすることによる効用を知っていただき、体を動かさないことによる体への悪影響というのがありますし、そういうところも織り交ぜながらできればと思います。

【馬場 委員】 冊子を作るということで、色々な事業が整理されているのですが、いわゆるプロモーション的などころがないような感じがしました。このスポーツ実施向上の取組みの強化の中の一つに冊子作りがあるのか、取組の強化のために冊子を作るのかということところがちょっと分からなかったのので、例えば、こういうプロモーション全体があって、その一環として冊子を作るのか、背景として出ていることを、この冊子を作ることに委ねるのか。動機づけを含めて、事業を知っていただくというよりも、体を動かすとかそういうこと自体のプロモーションみたいなものがどこかにないといけないのだろうと思います。例えば運動実施率ではなくて、年代別の体力テストのデータとかあれば、これだけ体力がないとかがわかり、実施率だけだとそういうことが分かりにくいので、そういうのがあったりするといいと思います。体験の中に、年に1回体力テストで自分の骨年齢とか、体力年齢を測りましょうというようなものがあったり、サークルや教室に入るとなるとハードルが高くなるので、規模が小さくてもいいので、あちこちで小さい体験会みたいなものがあって、気軽に参加できるものがあったり、それが色々なプロモーションにセットになっていたり、そこで体力測定もやっていたりなど、そこで久しぶりに測定してみたら「若いときはスポーツをやっていたのにな」というような結果が見えたり、そういうのが分かるような事業というかプロモーション+事業みたいなものがあってもいいのかなと思いました。国の調査では、いろんな年代の体力測定を調査して結果を出していたように思います。体育の日に、市民を1000人くらい集めて、体力測定をあちこちでいっぺんにやって、年代別の集計をしていたと思います。実年齢より体力年齢が若ければ何かもらえるととか、表彰されるようなことがあると面白いと思います。

【山崎 課長】 健康支援課の事業で「わくわくヘルスアップ」という事業があり、その中で健康測定コーナーというのがあって、そこに参加されれば、そうした測定をしているということはありません。

【安藤 部長】 骨密度や血管年齢などを測れます。実際の体力能力証明みたいなものをこどもだけでなく、大人のデータも知れると面白いというのはありますので、市で1か所なのか、各区で実施するのか、どちらにしても展開できたら面白いと思いますし、きっかけ

づくりにもなるのかなと思いますので、プロモーションをどういったものにするのかも含めて、冊子自体は手段という意味合いがありますので、プロモーションの中で広めていきたいと思います。

【小川会長】わくわくヘルスアップの会場はどこでやっているのですか。

【山崎課長】6区で実施しております、場所については、学校の体育館などです。

【馬場委員】冊子はいつ頃完成予定ですか。

【山崎課長】今年度中に作成したいと考えております。

【小川会長】次回の審議会の中ではほぼ出来上がっているという認識でいいですか。

【山崎課長】そのとおりです。

【谷藤委員】冊子の中のコラムに、障害者スポーツを推進するというところで、障害者だけでなく、障害者と一緒に健常者の方も活動できるというところの情報をぜひ掲載していただきたいと思います。

【山崎課長】掲載するよう検討します。

【馬場委員】ネーミングとかキャッチフレーズというのが非常に大事だと思いますので、今の「新たな自分を発見しよう」というのもいいとは思いますが、もう少しもんでもらってもいいのかなと思います。また、千葉で体を動かすということそのものに、なんかネーミングがあるとか、キャラクターとか、シンボルになるようなもの、それがキャッチフレーズなのか、言葉なのか、形なのか分かりませんが、そういうのがあるといいと思います。

【山崎課長】検討させていただきます。

【小川会長】ほかにご質問などありますでしょうか。それでは、議事については以上となりますが、そのほかせっかくの機会ですので、何かご質問やご意見などありますでしょうか。

【委員】<なし>

【小川会長】それでは、以上で協議を終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

【内山課長補佐】小川会長、議事進行ありがとうございました。最後に、事務局より連絡がございます。

【竹内主事】平成29年度第3回の審議会については2月7日の水曜日を予定しておりますが、確定しましたらご連絡しますので、お忙しとは存じますが、ご出席につきまして宜しく願いいたします。連絡は、以上です。

【内山課長補佐】それでは、これをもちまして、「平成29年度第2回千葉市スポーツ推進審議会」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

閉 会 午後3時10分